

令和7年度12月全校集会校長講話

令和7年12月24日（水）

おはようございます。校長の鴨志田新一です。明日から、14日間の冬休みに入ります。年末年始にあたって、今年一年を振り返り、新しい年を迎え、改めて志を立ててください。

毎年、この時期になると1年間の世相を表す「今年の漢字」は発表されます。令和7年の漢字は「熊」でした。

皆さんにとっての今年の漢字はなんでしょうか？

ちなみに私にとっての今年の漢字は、「幸せ」を表す「幸」です。今年一年、家族みんな健康に恵まれ、笑顔で幸せに過ごすことができました。

もちろんすべてが幸せではなく、幸せではないこともありましたが、一年を通じて元気に楽しく過ごせたことは感謝したです。

映画「ローマの休日」の主演 オードリー・ヘプバーンの言葉です。

「何よりも大切なことは、人生を楽しむこと、幸せを感じることにあります。それがすべてです」
欲張りなので、来年はもっともっと楽しく幸せな年にしたいです。

さて、話は変わります。

図書委員会から「あすなろ」という図書の紹介の冊子が出されています。私も2冊の本を紹介しました。

そのうちの一冊 渡辺和子さんの「どんな時でも人は笑顔になれる」という本を紹介します。

渡辺さんは日本のカトリックのシスターです。岡山県のノートルダム清心女子大学の学長等と歴任しています。

お父様は陸軍教育総監を務めた渡辺錠太郎氏で1936年の2・26事件で反乱軍の兵士によって射殺されます。当時、9歳だった渡辺さんはその場に居合わせています。

その経験が彼女の人生観に大きな影響を与えています。

彼女自身が人間関係やうつ病で悩んだり、学生と交流したりしたことを題材にした多くのエッセイ集があります。

一番有名なのは、「置かれた場所で咲きなさい」が挙げられます。これまでに累計200万部の国民的ベストセラーです。

「置かれたところこそ、今のあなたの居場所なのです」という印象的な言葉とともに紡（つむ）がれる文章は美しく、多くの悩める人を勇気づけています。

今日は、今回紹介した「どんな時でも人は笑顔になれる」の中から、マザー・テレサさんとの出会いと交流を紹介します。

マザー・テレサさん日本に何度か来ていますが、来日した時、渡辺さんは通訳として日本全国を同行しました。

ある講演会の最後に男性から質問が出ました。

「あなたの所へ来る人は、瀕死の状態の人が多いのになぜ、少ない医薬品や人手を助からないかもしれない人に与えるのですか」

医薬品や医師を使うのであれば、早く手当すれば助かる確率の高い人に優先するトリアージという考え方があります。

しかし、マザー・テレサさんの答えは、「I don't think so (私はそうは思わない)」でした。

そうしてこう続けます。

「私のところへ連れて来られる人たちは、望まれずに生まれてきた人たちが多いです。生きている間中「邪魔だ、汚い、臭い」と言われ居場所のなかった人たち。そんな人たちが私の所へ連れられてきます。今まで飲んだこともない薬を与えられ、今まで感じたことのない優しさに包まれ、やがて死にゆくときが訪れると、ほとんどの人が『Thank you (ありがとう)』と言って亡くなります。中には笑顔を浮かべて逝く人もいますのですよ」この考え方には異論もあるかもしれません。

しかし、愛されずに一生を終えようとしている人を愛で包む優しさがありません。

看護の看の字は、「手」と「目」から成り立っています。手を差し伸べて、そばで支えて、見守ることができる。

そんな人になりたいですね。

最後に集会の決まり文句 「凡事徹底」 当たり前のことを当たり前にする。

この考え、価値観だけでも、人生は変わってきます。是非、当たり前のことを当たり前にしてください。そうして、常盤高校の全員が幸福な人生を送ること、自分の漢字が「幸」であることを心より願っています。

年末年始は、何かと慌ただしく、誘惑や危険とも背中合わせです。また、交通事故も多い時期です。十分に意識しながら、安全に過ごしてください。

そして、1月8日には、元気な姿で、学校で会えることを願っています。

毎回、全校集会で私が話した原稿は、学校のホームページの「校長室より」に掲載してある。もし、気になったら読んでください。

私からは以上です。